

病理専門医制度運営委員会だより（第35号）

1. 2023年度病理専門医試験について：

2023年度の専門医試験は、9月2～3日（土、日）に杏林大学医学部で実施いたします。試験方式は2021年度から導入された方式、PCを用いたヴァーチャルスライドと写真(PDF配布)で試験を行います。PCはレンタルで用意しますので、持ち込みは不要です。ビューワーは浜松ホトニクスのNDP.view2画像閲覧ソフトウェアを使用します。受験される皆様にはヴァーチャルスライドに事前に慣れておいてから試験に臨みますようお願いいたします。ソフトウェアは浜松ホトニクスのホームページからダウンロード可能です (<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/life-science-and-medical-systems/digital-slide-scanner/U12388-01.html>)。また、サンプルデジタル病理画像 (WSI) を会員専用ページに掲載しておりますのでこちらも練習のために活用いただければ幸いです。

(<https://e-learning.pathology.or.jp/course/view.php?id=63>)

コロナ禍で剖検数が減少していることから、2023年度以降の受験者は、剖検症例数が3年間で24例とすることが日本専門医機構（以下 専門医機構）でも認められました。ただし、経験数の減少に対する「質の担保」を確保するため、1回目の更新までに剖検講習会の受講と10例の剖検症例の提出（指導・副執刀症例も含む）が必要となります。また受験申請時のCPC症例数もこれまでの2例から4例に増えましたのでご注意ください。

研修区分A、B（2014年度以前の研修開始者）は2023年度の受験申請より、受験条件がCに統合されることが決定いたしました（2022年4月理事会決定）。2023年度より全ての受験者が同じ受験要件で申請となります（研修手帳での研修、分子病理診断に関する講習会の受講必須）。詳細は以下をご確認ください。

https://www.pathology.or.jp/senmoni/koushin_jouken.pdf

なお2023年度の受験資格審査は無事終了し、出願者全員の受験が認められました。ご不明な点がございましたら日本病理学会事務局へお問い合わせください。

2. 病理専門医資格更新について：

昨年度の専門医資格更新審査では最終的に99.7%の先生方が無事専門医機構認定病理専門医として更新されました。とはいえ、更新審査に関して問題となった事例もあるため、本年の更新に向けて以下の事項の周知をしていただきたいと思います。専門医試験受験の書類提出WEB説明会と同様、昨年度より開始した専門医更新WEB説明会もかなり有効でしたので本年度も10月初旬に開催する予定です。

資格更新には5年間で最低50単位が必要です。さらにその

内訳で、診療実績、専門医共通講習、病理領域講習、学術業績・診療以外の活動実績の4区分があります。また各種実績や受講証は有効期限があります。2023年秋に更新をされる方は、**2018年11月以降、2023年10月までのものしか認められません**のでご注意ください。

なお今年度から、資格更新申請をされた先生方も、専攻医同様に専門医機構のマイページに登録をしていただくことになっておりますのでご承知おきください。詳細は対象者に別途ご案内いたします。

○診療実績：診療実績は5単位以上必要です（最大10単位まで）。病理組織診断は100例で1単位、術中迅速診断は10例で1単位、剖検・CPCは1例1単位で計算されます。審査の都合上、できれば剖検・CPCのような単位の大きい診療実績で提出していただくとありがたいです。症例はいずれも医療機関で行われたものに限りです。検査会社など医療機関以外の症例は認められませんのでご注意ください。これまで連続3回以上の更新を行った方（今回が4回目以降の更新の方）は、診療実績の提出に2つの方法があります。一つは通常通り症例を提出していただく方法、もう一つは症例提出の代わりに病理学会HPの生涯学習を受講していただく方法です (<https://e-learning.pathology.or.jp/course/index.php?categoryid=5>)。生涯学習を受講して一定の得点に達しますと受講証明書が発行されますので、これを提出してください。診療実績10単位分に相当します。後述しますが、この受講証明書は「診療実績」であり、「領域講習」にはならないことをご承知ください。

○専門医共通講習：専門医共通講習は3単位以上（最大10単位まで）が必要です。この3単位うち共通講習A：「医療安全」「医療倫理」「感染対策」の各1つずつは必修です。今年度の更新を行う方にこの対象者はいませんが、2021年度以降に専門医試験を受験し機構専門医を取得した者は更新要件として共通講習A「医療安全」「医療倫理」「感染対策」の3科目（各1単位）に加え、共通講習B「医療制度と法律」「地域医療」「医療福祉制度」「医療経済」「両立支援」の5科目（各1単位）の受講必須となっています。共通講習Aは春の病理学会総会時にも行われます。医療倫理については「研究倫理」の講習会でも認められますので、特に大学など研究機関に勤務されている方はこの講習会の受講証明書を大切に保管してください。共通講習Bは2023年病理学会総会（春）で「医療制度と法律」の講習会が行われました。今後は病理学会総会で毎年1科目開催予定です。不足分の単位は後述の専門医機構によるWEB学習をご利用ください。2018年度以降の共通講習は事前に専門医機構に講習会の開催を申請し、許可の下りた講習会だけが単位の対象となっています。詳しくは専門医機構のHPで確認をお願い

います。2018年度以降、専門医機構によって認定された共通講習は必ずコード（例：24XX-20191212-1-153-99）が入っています。コードのない受講証明書は更新単位として認められませんのでご注意ください。臨床細胞学会から発行されたWEB受講の「共通講習」は一部で専門医機構に認定されていませんのでご注意ください。2020年秋、2021年春と秋の臨床細胞学会総会でのWEB受講共通講習は無効です。加えて2022年春の臨床細胞学会総会の共通講習も第1期WEB受講のものは有効ですが第2期WEB受講のものは無効です。お手元の受講証明書のご確認をお願い致します。共通講習単位不足の方は、専門医機構によるWEB学習でも1講座3,300円で単位取得ができます。詳しくは<https://jmsb.or.jp/senmoni/#an11>を参照してください。なお、現時点では未確定ですが、専門医受験に際しても共通講習の受講が今後必須となる可能性が出てきました。これから専門医試験を受験する予定の専攻医の先生方も可能な限り共通講習の「医療安全」「医療倫理」「感染対策」の各1つずつを受講しておいてください。

○病理領域講習：病理領域講習は20単位以上必要です。病理領域講習会受講証明書は各講習会の会場、あるいはWEB受講の場合WEB上で配布されますので、専門医番号と氏名を記載したうえで更新時まで各自で確実に保管してください。無記名の場合は再提出となりますのでご注意ください。従来の手札サイズの受講証を単位証明添付用紙に貼付していただく際には、すべての受講証に専門医番号と氏名が記載されていることが確認できるようにしてください。重ねて貼付した場合、氏名などが確認できないことがありますのでご注意ください。用紙に直接貼付せず、封筒などにまとめて入れていただいても構いません。WEBを含め2020年度以降の受講証はほとんどがA4サイズになっていますので、クリップやクリアファイルでまとめるなどして提出してください。2019年6月に開始された「希少がん病理診断画像問題・解説（e-ラーニング）」も領域講習の単位となります。「希少がん病理診断画像問題・解説（病理学会希少がんHP）」を受講し一定の得点に達しますと病理領域講習の単位が付与されます（最大15単位で、それ以上は認められません）。希少がん病理診断画像問題で取得した単位に関しては、自動で登録されますので、単位の印刷・添付は不要となり便利です。ただし、希少がんサイトはクラウド移設作業のため2023年8月16日（水）0:00から8月31日（木）23:59まで停止となりますのでご注意ください。なるべく停止前に受講していただきますようお願いいたします。なお、診療実績のところで記述した「生涯学習」は病理領域講習単位にはなりません。病理領域講習の単位が不足している場合、学術業績・診療以外の活動実績（学会発表や論文、査読など）の一部を振り替えることも可能ですが、後述のように、学術集会の参加単位は5年間で6単位までしか認められませんので、それ以上の学術集会や支部会の参加単位を病理領域講習に振替することは

できません。また、2020年以後は1回の病理学会総会（春）で受講したうち申請できる単位数は最大12単位、病理学会総会（秋）は最大8単位までに限られます。臨床細胞学会で受講したうち申請できる病理領域講習単位数も1回の学術集会で最大6単位となっています。駆け込みで多くの単位を得ようとしても、上限がありますのでご注意ください。

○学術業績・診療以外の活動実績：学術業績・診療以外の活動実績は0～10単位が必要です。学術集会（総会・支部会・関連学会など）参加による単位の上限は5年間で6単位までです。それ以上出していただいても、6単位までしかカウントできません。6単位以上提出して認められず、単位不足となり更新できない方がいますのでご注意ください。参加単位以外で認められるのは学会発表、論文報告、学会座長、学会誌査読、医療事故調査協力等です。上述のように、6単位を超えた学術集会（総会・支部会・関連学会など）参加による単位分を病理領域講習に振り替えることはできません。学術業績・診療以外の活動実績も証明できる文書（コピー可、論文の場合は別刷り）が必要ですので、貼付をお忘れなく。学会の参加証は必ず記名したもので、かつ名札部分と領収書部分を切り離さずに提出していただく必要があります（コピー可）。なお「学術業績・診療以外の活動実績」は0単位でも構いません。領域講習を多めに取り50単位になっていればここは0単位でも構いません。

以上のことを踏まえて、更新書類の提出前に確認をお願いします。

- ・診療実績は足りているでしょうか。過去3回以上連続で更新された方は通常通り症例を提出していただく方法と、症例提出の代わりに病理学会HPの生涯学習を受講していただく方法があります。生涯学習を受講して一定の得点に達しますと受講証明書が発行されますので、これを提出してください。
- ・共通講習は受講済みでしょうか。WEB受講の臨床細胞学会総会における共通講習は一部専門医機構未承認ですので確認をお願い致します。
- ・学術集会以外での共通講習受講証明書に専門医機構のコードが入っているでしょうか。
- ・2020年以後は1回の病理学会総会（春）で得ることが出来る単位数は最大12単位まで、病理学会総会（秋）は最大8単位に限られます。また臨床細胞学会で得ることが出来る病理領域講習単位数も1回の学術集会で最大6単位となっています。
- ・学会参加証や各種講習会受講証明書への記名はされているでしょうか。
- ・「希少がん病理診断画像問題・解説（e-ラーニング）」も領域講習の単位となり（最大15単位まで）、書類提出時に便利です。
- ・学術集会参加による単位の上限は6単位までです。6単位

を超えた分はカウントされず、また病理領域講習に振替することもできません。

- ・単位不足で更新が困難な場合、あるいは過年度までに学会専門医の更新をせず今回専門医復帰を希望される方は、必ず事前に事務局までご相談下さい。

3. 2024 年度の病理専門医受験資格審査について：

2023 年度から受験申請は電子化され、PDF ファイルのアップロードなどを用いる方式になりました。2024 年度病理専門医試験受験申請は従来通り 2024 年 4 月 1 日より 4 月 30 日までを予定しています。2021 年度から開始した書類提出についての WEB ガイダンスはかなり有効であったことから、2024 年度も 4 月上旬に WEB での試験願書類提出ガイダンスを行いますので、受験される方はぜひ参加していただきたいと思います。参加登録方法は 2024 年度試験要綱公示の際にご案内予定です。申請書類の内容に関して、昨年度までの審査で、問題となる部分を以下に説明します。

○人体病理学の業績：人体病理の業績は 3 編以上が必要で、あくまでも「人体病理（病理診断学）」の業績であることを念頭においてください。3 編中 1 編は論文でなければいけません。論文は本学会が発行している診断病理や Pathology International（PIN に関しては Letter to the Editor も可）以外に、適切なレビューシステムのある病理関連の雑誌であれば認められます。また人体材料を用いた実験的研究の場合や、病理関係の雑誌でない場合でも、適切なレビューシステムのある雑誌であり、かつ論文の主旨に病理診断が関係し、病理診断に関する写真（図）があれば認められます。論文の中に病理組織の図が全くないような論文では疑義が生じてきますのでご注意ください。なお、国内誌で大学や病院など施設単位の紀要レベルのもの、都道府県単位の地方誌レベルのものは、たとえ英文誌であっても原則として業績の対象外となります。いわゆるハゲタカジャーナルについては今後検討していく予定ですが、現時点では遠慮していただくほうが確実です。掲載雑誌や学会発表の内容などが受験資格として適切かどうか判断が難しい場合は、事前に病理学会事務局にご相談ください。また業績 1 編のうちどれか 1 編は受験生本人が筆頭でなければなりません、これは学会発表でも可です。学会発表は原則的に病理学会（総会・支部会）での発表のものとします。発表は他学会も可ですが、その対象となる学会は病理学会の更新単位付与が認められているものに限られます。また支部会や他学会での発表を業績とする場合は、原則として受験生本人が筆頭演者であることが必要です。

○研修手帳（病理専門医研修ファイル）：研修手帳の捺印などを簡素にした新版が HP にアップされています。指導責任者による評価や署名・捺印箇所が少なく、こちらの版をご活用下さい。申請に当たりお手元の版を用いても構いませんが、従来からの版を用いる際は「病理専門医研修ファイル」への評

価と認証捺印及び日時記載を確実にお願いします。捺印や日付記載がないため、一旦返却となる事例が毎年数件発生しています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/semoni-shiken/index2.html>

○受験に必要な講習会：「剖検講習会」、「病理診断に関する講習会（病理学会病理診断講習会、国際病理アカデミー主催の講習会など）」、「細胞診講習会（日本臨床細胞学会細胞診専門医有資格者は不要）」、「分子病理診断に関する講習会」を確実に受講していることの確認をお願いします。対象となる講習会は病理学会 HP の 専門医 > 専門医試験必須講習会 に掲載されています。

分子病理診断に関する講習会は病理学会総会時の「分子病理診断講習会」以外に「病理学会カンファレンス」「ゲノム病理標準化講習会」（2018 年度開催分より）および 2023 年度受験生より「分子病理 Up to Date 講習会」の受講でも認められます。いずれにしても受講証明書の貼付を確認してください。

剖検講習会は春の総会時に開催されています。受講者は事前に病理学会 HP に掲載される「剖検講習会について」を確認してください。受講前までに HP に掲載されている課題に対する回答レポートの提出が必要です。提出方法は病理学会 HP「剖検講習会について」をご確認下さい。

○死体解剖資格：これは厚生労働省医道審議会で認定されるものですが、2018 年度より主執刀 20 例かつ第一例から 2 年以上の経験が必要となりました。死体解剖資格や病理専門医受験のための解剖症例に、医師臨床研修（いわゆる初期研修）期間の症例は認められません。病理専門医受験のための解剖症例は、病理専門研修開始後の症例だけが対象となります。また死体解剖資格取得するには、開頭を含む剖検症例が 1 例もない場合、認定が保留されますのでご注意ください。2021 年度以降は死体解剖資格審査が例年と比べかなり遅くなり、提出書類の書式も新たなものに変更されたため書類再提出事例も多くなったようです。4 月末の受験願書締め切りに間に合うように、受験予定者は死体解剖資格の要件を満たした時点で直ちに申請をしてください。

○病理解剖報告書：24 例の剖検報告書の写しが必要です。主診断医が診断者名の筆頭にあることが望ましいのですが、施設（システム）により執刀医や診断医が不明瞭な病理解剖報告書があります。診断書上の記載順位にかかわらず、申請者が筆頭で執刀したことを推薦者に確認してもらう必要があります。推薦者はこの点を確認し、推薦書にチェックして下さい。加えて CPC 記録（4 例）の提出も必須です。これは自ら CPC を行った、あるいは研修医の CPC の指導を行った症例の CPC 開催記録と臨床経過、臨床上の疑問点、病理所見、考察、死に至る病態のフローチャートを含む当日発表したデータ（パワーポイント資料など）を提出していただきます。剖検診断の報告書のみでは CPC 記録とはなりませんのでご注意ください。

○術中迅速診断報告書：50例が必要です。こちらも書式を試験要綱ページに掲載しております。

○書類をアップロードする時には、剖検や迅速のリストに書かれた順番と診断書の順番が一致するようにしてください。

○JMSB Online System+(日本専門医機構研修システム)での研修修了申請について(2018年度以降の研修開始者のみ):対象者は受験申請前までに、「研修修了申請」を行いプログラム責任者に「研修修了申請」の承認を受けてください。

研修は原則として基幹施設と連携施設で行う必要があります。ただ、基幹施設のみ、あるいは連携施設のみで研修を行なった場合でも、週1回程度、他施設で研修を行うことで研修修了できる場合があります。例えば連携施設のみで研修している人は基幹施設に3年間週1回研修しに行った場合、6ヶ月相当の基幹施設での研修と同等とみなされます。基幹施設のみで研修している人は連携施設で15ヶ月週1回研修することで、3ヶ月相当の連携施設での研修と同等とみなされます。メインで研修している基幹施設または連携施設から週1回で連携施設または基幹施設へ研修に行くこの場合、システムの備考欄に週1回研修の施設名と研修期間を記載していただく必要があります。1つの研修施設の登録だけでは日本専門医機構で研修の承認がされず、試験合格後も認定証が発行されません。登録方法の詳細は以下よりご確認ください。

(https://www.pathology.or.jp/senmoni/jmsb_system.pdf)

○会員システムについて:特に受験申請者は会員システムにはご所属先を必ず登録してください。

4. e-learning について (再掲):

2019年6月20日より、病理専門医更新のための新たな単位付与(eラーニング:領域講習単位)が開始となっています。職場あるいは自宅でも学習可能で、専門医更新のための領域別講習の単位になり、かつ取得単位は病理学会会員システムの「単位」欄に自動的に反映されるため、専門医更新書類提出時には、システム上の単位を印刷・添付するなどの手続きが不要です。是非「希少がん病理診断画像問題・解説(eラーニング)」をご活用頂き、日常診療および希少がんの病理診断力の向上にお役立て下さい。詳細は以下になります。

- ・「希少がん病理診断画像問題・解説(病理学会希少がんHP)」を受講の際に病理領域講習の単位を付与します。
- ・専門医更新に必要な領域講習単位のうち15単位までが、本e-learningで取得可能になります。
- ・現在(6月13日時点)は骨軟部腫瘍(28コース)・脳腫瘍(20コース)・小児腫瘍(26コース)・頭頸部腫瘍(15コース)・皮膚腫瘍(15コース)・悪性リンパ腫(20コース)で全124コース(1コース:10問)が用意されています。今後、希少サブタイプとして婦人科と乳腺が加わる予定です。
- ・8割(8問)以上の得点で合格となり、1コースにつき領

域講習1単位が認定されます。ただし、専門医更新の病理領域講習に使えるのは最大15単位までです。

- ・8問以上をクリアするまで何度でも繰り返し受講することができます。
- ・取得単位は病理学会会員システムの「単位」欄に自動的に反映されます。
- ・専門医更新書類提出時には、システム上の単位を印刷・添付するなどの手続きは不要です。
- *注意:2019年6月20日13時以前の受講履歴はすべてリセットされています。この日以前に受講された履歴は単位付与対象になりませんのでご注意ください。再度の受講をお願いいたします。また希少がんサイトはクラウド移設作業のため2023年8月16日(水)0:00から8月31日(木)23:59まで停止となりますのでご注意ください。
- *希少がん診断のための病理医育成事業ホームページ「コースカテゴリ」から会員システムのID、PWを用いてログインし、履修することができます。

<https://rarecancer.pathology.or.jp/>

- ・希少がん診断のための病理医育成事業「希少がん病理診断講習会」が年間4回開催されています。いずれも事前予約のWEB開催で、参加者には病理領域講習単位が付与されます。

5. 細胞診講習会について:

2023年度細胞診講習会は2024年1月27~28日に山梨大学の近藤哲夫先生世話人のもとWEBで開催されます。詳細については今後HPなどで情報を公開する予定です。受験予定者は受講必須の講習会となります。受講忘れのないようご注意ください。

6. 専門医広告について:

専門医機構専門医が医療法上の広告可能専門領域となりました。従来の病理学会認定病理専門医の方は次回更新時(専門医機構での更新時)までは「病理学会認定病理専門医」の標榜となります。専門医機構と病理学会両者から認定されている方は「専門医機構認定病理専門医」だけの標榜となり、専門医機構だけから認定されている方は「専門医機構認定病理専門医」となります。以下HPに詳細がありますのでご参照ください。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/senmoni/20211210info.html>

7. 専門医研修制度について (再掲):

専攻医の採用が決定しましたら、プログラム制・カリキュラム制を問わず、専攻医自身が確実に専門医機構へ専攻医登録をしてください。登録が遅れた場合の猶予はなく、1年単位で専攻の修了が遅れることになり、かつ未登録時点での経験症例はカウントされません。採用が決まった時点で直ちに専門医機構への登録も忘れずをお願いします。

プログラム定員の上限設定(シーリング)について、病理を含む6領域(他は臨床検査、外科、産婦人科、救急科、総合診

療)に関してはシーリング対象外となっています。しかしながら、専門医機構のシーリング案に意見をもつ関係団体も多く、専門医機構としては厚労省の部会と折衝をしているところで。状況がわかり次第、HPなどで情報を開示しますので、皆様にはHPのチェックをお願いします。なお、今進められているシーリングは、基本データとして三師調査(2年ごとに年末に行われる医師・歯科医師・薬剤師の勤務状況調査)、将来人口予想、DPCデータなどが用いられ、厚労省によって綿密に作られています。ただ、三師調査によると病理診断科を主としている医師数は、病理学会で想定している数値と食い違いがあり、この数値を基に計算されると不都合が生じる可能性があります。次回の三師調査の時には正確な記入を心がけていただくよう、お願いします。なお、シーリングが今後病理領域まで及んでくるのか、今のところ状況は不明瞭です。とはいえ、専攻医採用に関して遠慮することはなく、これまでと同様、指導に当たる先生方には積極的な勧誘活動をお願いします。各プログラムの定員についてもこれまで同様の柔軟な判断をさせていただきたいと考えております。

前回まででもお知らせしてきましたが、カリキュラム制度による採用が緩和されています。すでに他の基本領域の専門医資格(内科の場合は認定医も含む)所有者(病理専門医とのダブルボード取得を目指す方)だけではなく、妊娠・出産・育児・介護・本人の疾病などでもこの制度を使うことが可能です。プログラム制で採用された専攻医も留学、妊娠、出産等の特段の理由がある場合、カリキュラム制への移行も可能です。ただし、カリキュラム制の方もプログラム制の方と同様に、専門医機構への専攻医登録を行い、システム上で採用していただく必要があります。また病理学会入会後に研修届を提出し、研修手帳を受け取ってください。カリキュラム制度で採用する場合でも原則として教育資源(特に剖検数と指導医数)の確実な確保は必要です。カリキュラム制に関する詳細は病理学会ホームページ(<https://pathology.or.jp/senmoni/curriculum.html>)をご確認下さい。

2021年度より研究医養成プログラムが全国で40名程度の定員で開始されています。専門研修と大学院などでの研究を並行させるプログラムです。これに関して、病理領域では従来から大学院での研究を並行して行っている事例も多いため、病理学会として定員は設けていません。

8. 分子病理専門医認定制度について

- 分子病理専門医認定者名簿を掲載しています。2023年4月1日認定者も追加されています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/certified-pathologist.html>

- 2023年度 第4回分子病理専門医試験を以下日程で実施予定です。

2023年12月17日(日)(TOC有明)。2023年4月3日に公示しています。

対象者: 病理専門医、口腔病理専門医

試験要綱はHP(新着情報4月3日付)でご確認ください。

- 分子病理専門医制度に関するHP

<http://pathology.or.jp/senmoni/bunshibyouri.html>

9. 専門医機構の動向について

○サブスペシャルティについて: 専門医機構ではサブスペシャルティ領域は多くの病院において設けられている診療科のみを認定する方針となっています。これを機構認定サブスペシャルティといいます。日本臨床細胞学会の認定する細胞診専門医は診療科として独立している施設がほとんどないため、機構認定サブスペシャルティにはなりません。臨床細胞学会が認めて専門医機構がそれを承認する機構「承認」サブスペシャルティとなる方向で話が進んでいます。まだ未確定要素が多いので詳しい説明はできませんが、状況が明瞭になり次第、HPなどで連絡いたします。

○専門医試験受験年限・回数の制限について: これまで学会主導の専門医試験の受験回数に制限はありませんでしたが、2017年度以降の専門医機構での研修開始者は、今後は研修修了後5年以内(受験回数5回以内)が受験資格となります。育児や介護などやむを得ない事情がある場合は、1年単位での延長は可能です。

○専門医更新時の試験について: これまで専門医資格更新は単位数のみで決められていましたが、専門医機構の方針として、単位数だけでなく更新時にも何らかの試験を行う方向が出されています。現時点ではまだ検討中ですが、今後、WEBなどを用いた試験が加わることも予想されますので、予めご了承ください。

10. 今後の日程について:

- 希少がん診断のための病理医育成事業では引き続き希少がん病理診断講習会を実施しております。すべて事前申込制で、定員以上の申し込みの場合は抽選となりますので、日程は7月22日、10月28日、11月25日、2024年2月17日のいずれも土曜日で、WEBで開催されます。HP(<https://rarecancer.pathology.or.jp/>)でご確認ください。希少がん・病理診断講習会は、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております。また専門医受験に必要な病理診断に関する講習会としても認められております。
- 第12回ゲノム病理標準化講習会は2023年7月1日~31日にWEBで開催されます。
- 第3回分子病理Up to Date講習会(兼 分子病理専門医更新講習会)は2023年7月1日にwebで開催されます。
- 第10回分子病理専門医講習会は2023年7月9日にWEBで開催されます。
- 第19回病理学会カンファレンスは2023年8月4~6日に函館市で開催されます。
- 第11回分子病理専門医講習会は2023年8月11日にWEBで開催されます。

- ・第17回診断病理サマーフェストは2023年9月9～10日に東京で開催され、オンデマンド配信もあります。
- ・第4回分子病理 Up to Date 講習会（兼 分子病理専門医更新講習会）は2023年10月7日にwebで開催されます。
- ・第69回秋期特別総会は2023年11月9～10日に久留米市で開催されます。
- ・2023年度細胞診講習会は2024年1月27～28日に開催予定です。

11. 希少がんサイト・病理情報ネットワークセンター利用停止期間のお知らせ

希少がんサイト (<https://rarecancer.pathology.or.jp/>)・病理情報ネットワークセンター (<https://e-learning.pathology.or.jp/?redirect=0>)の現行のハウジングによるサーバ保守契約満了に伴うクラウド移設作業のため、下記の期間において使用停止となります。

■停止期間■

新スライドアップロード不可期間：

2023年8月5日（土）0：00～8月15日（火）23：59

サイト停止期間：

2023年8月16日（水）0：00～8月31日（木）23：59

■運用再開予定日■

2023年9月1日（金）13：00

上記の期間は、希少がんサイト（E-ラーニング含む）および病理情報ネットワークセンター（各支部利用を含む）の活用等、一切の利用（登録・閲覧等）ができなくなります。

病理専門医更新のためのE-ラーニング受講（15単位まで）をお考えの先生方や、各支部でご活用をご予定の先生方は特にご注意ください。

運用再開は2023年9月1日（金）13時を予定しておりますが、不測の事態に備え、できれば停止期間前のご利用をお願いいたします。

セキュリティ強化と今後の長期間運用に伴う移設作業となります。期間中、ご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご了承のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

（文責：森井英一・大橋健一・中黒匡人・村田哲也）

== 特集 分子病理専門医試験 合格体験記 ==

第3回分子病理専門医試験を終えて

小樽市立病院 病理診断科 辻脇 光洋

分子病理専門医試験体験記の寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。大学病院の病理診断科勤務時には、エキスパートパネルに参加しやすい環境にいたこともあり、毎回ではないものの聴講して勉強させていただきました。2022年春に大学病院を離れ、運河と坂道が有名な街で市中病院の常勤病理医となってからは、小林多喜二の文学碑や漫画 最終兵器彼女の聖地がある旭展望台から市街地の景色を眺める余裕もないまま、通勤と看護学校講義の準備に思ったよりも時間を取られる生活をしていました。そんな中、遺伝子パネル検査に検体を提出する機会は増えており、前任地でのエキスパートパネル参加証明書が有効な間に、知識の整理・アップデートのため分子病理専門医試験を受験することにしました。

身近に第2回分子病理専門医試験合格者が複数いたため、参考図書や勉強に用いたwebサイト、試験の傾向についての情報は得ることができました。使用した資料は、分子病理専門医講習会テキスト、ゲノム病理標準化講習会テキスト、ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規程、がんゲノム病理学、がんゲノム医療遺伝子パネル検査実践ガイド、webのe Precision Medicine、遺伝性腫瘍 e-Learning、病理学会ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規程 e-Learning です。

エキスパートパネルへの参加を通して、普段から知識の確認、理解不足の部分を補充するような勉強をするのが理想的なのでしょうが、院内に会場があるのと、1時間以上かけて職場から移動するのでは、エキスパートパネル出席のハードルの高さが大きく変わってしまいました。次第に足が遠のき、講義資料作成や会議等も含めた日常業務を言い訳に、試験勉強は後回しになりました。11月に入りようやく学習を始めましたが、あまりまとまった時間を取れず、効率的・効果的とはほど遠いやり方であったと反省しています。上記のいずれの資料、ウェブサイトも日々のゲノム関連業務に役立つものの、個人的にはe Precision Medicine の受講証明書発行にやや時間をかけすぎたと感じています。I型問題は分子病理専門医講習会テキスト、がんゲノム病理学を中心に学習し、病理学会ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規程関連の問題については、取りこぼしをできるだけ避けるのが良さそうです。II型問題は、C-CAT調査結果から解析結果の解釈や二次的所見の判断、治療薬の選択等をおこなうもので、日頃からエキスパートパネルに参加し、理解を深めることが対策になるものと思います。

知識や理解が不十分なことは試験直後の自分が一番感じておりましたが、なんとか合格通知をいただくことができました。今後もエキスパートパネルや分子病理 Up to Date 講習会等を通じて知識や経験を深め、ゲノム医療に貢献できるよう努力してまいります。

分子病理専門医試験 合格体験記

慶應義塾大学医学部病理診断部 上野 彰久

今回、分子病理専門医の試験を受けようと思ったきっかけとしては、現在大学病院（がんゲノム医療中隔拠点病院）にいるということもあり、日々、臨床科の先生方からお問い合わせがあり、それらに対応する中で、これは一度きちんと勉強して知識を身につけたいなと感じたということもあり、勉強するための理由付けとして試験を使わせて頂こうと考え、今回受験することを決断しました。

試験にあたっては、受験資格に必要な二つの講習会に参加するほか、主に、次の2冊を重点的に勉強しました。ゲノム研究用・診療用病理組織検体取り扱い規程 一般社団法人 日本病理学会 編（羊土社）。がんゲノム病理学 田中伸哉、西原広史 編（文光堂）。前者は、非常に細かいところまで、実際に実験を行って検証したデータを元に作成されており、それを見るだけでも大変感服致しました。また、要点が非常に簡潔にわかりやすくまとまっており、覚えやすかったです。後者は、基本的なところから、私のような駆け出しの病理医にも非常にわかりやすく解説がされており、非常に読みやすく、勉強になりました。章末の練習問題や最後の症例問題は試験に直結した内容であり、このあたりは試験前に何回か読み直しました。また、分子病理専門医講習会のII型問題の解説もわかりやすかったので、試験直前に読み返しました。これらの本、テキストに書かれていて解らない事、疑問に思った事などは、がんゲノム医療時代の分子病理学（病理と臨床 2022年増刊号）など、より詳しく解説されている教科書を読んで勉強しました。幸いな事に、現在では沢山の良い教科書が出ていますので、勉強する材料には困らないかなと思います。

放射線科から病理に転科して、病理専門医試験を含めて3つ目の試験となったわけですが、あくまで個人的な観点での難易度としては、病理専門医試験>分子病理専門医試験>細胞診専門医試験、という印象でした。もちろん、試験を受けた順番もあり（病理専門医を受けるに当たって、細胞診の知識などはかなり勉強していると言う事もあります）、一概には判断しがたい所があるかと思いますが、これから分子病理専門医試験を受けようかどうかと考えている先生方に、なんとなくの参考になればと思い、このような事を書かせて頂きました。とりあえず、今回試験には合格致しましたが、今後も引き続き精進して知識をアップデートしていかなければならないと感じております。

最後になりますが、今回、さすがにこれで資格試験から卒業かなと思いつつ会場に足を運んだわけですが、会場には私よりもご高齢の先生方が多数いらっしゃり、病理の先生方は皆さん勉強熱心だな、と大変感銘を受けた事を付け加えさせていただきます。

分子病理専門医試験を受験して

名古屋市立大学医学部附属病院西部医療センター病理診断科

石川 操

第三回分子病理専門医試験を受験し、幸いにも合格することができました。少しでも皆さんの参考になればと思い、私の受験勉強を紹介します。

私は専門医試験頃からはほぼ一人病理医として年間7,000件の一般病院に勤務していました。それから数年が経過したところでゲノム医療が始まりましたが、地域の病院の立場では、それはあくまで一部の病院で行われている特殊な医療に思え、詳細はなかなか見えませんでした。しかし今後必要な能力に思われましたし、分子生物学的な面との関連ということに興味もありました。まずは病理学会の講演にてゲノム医療やエキスパートパネルに関連した内容を拝聴し、分子病理専門医講習会を受講しました。しかし、どれも日常業務とはかけ離れた別世界であり驚くほど内容が理解できませんでした。このため、本腰を入れて勉強しようと試験を目標に据えました。

まず「がんゲノム病理学」（文光堂）を読み、前半を中心に覚えるより他ないことを単語帳に書いて記憶しました。別世界を理解するにはやはり暗記と慣れは重要で、徐々に「講習会テキスト」の内容が理解できるようになりました。テキスト記載内容を解説することを目的に、ほかの参考図書やWEBでの参考サイトを調べ、全体を把握するように努めました。具体的には、シグナル伝達経路は薬剤とともに図表と一緒に確認したり、「病理組織検体取り扱い規程」（羊土社）からは検体提出のポイントを細かく確認したりしました。各論の知識も必要だろうと考え、分子分類の概要を知るため一部の腫瘍ではWHO blue-bookや「癌の分子病理学」「がんゲノム医療時代の分子腫瘍学」（文光堂）を読みました。これは、試験までにエキスパートパネルを拝聴する経験が数回であった身としては、もう少し読みこんでもよかったかと思います。直前に「がんゲノム病理学」の練習問題と症例問題を解きました。症例問題については、この時点でも解説を読んでもあまり理解できませんでしたが、「遺伝性腫瘍ハンドブック」（日本家族性腫瘍学会）を読んで要を得られたように思います。この本は病理系の本にない記載が充実しておりおすすめです。臨床マネジメントの理解が進みます。

私的には、育休からの復職と母校の名市大附属病院分院への異動を挟み、落ち着く間もなく受験するという慌ただしい一年でした。そのためか、合格のお知らせを受け取ったときは素直に嬉しく感じました。継続して勤務できたことに加え、新しい試験にも合格できたことは、これまでお世話になったすべての先生方のおかげです。ここに全員の名前を挙げることはできませんが、心から感謝しています。今後は連携病院所属の分子病理専門医としてゲノム医療に関わってゆきたいと思っています。

第3回分子病理専門医試験を受験して

恵心会京都綾部さくらホーム 足立 靖

過去に受験した先生方の体験記を拝読すると、「勉強期間は1ヶ月」、「試験前日は、試験と関係ない事をしていた」などの記載もありますが、60歳代半ばでの受験となった私には、全くその余裕はありませんでした。勉強期間は、約4ヶ月、最後の1ヶ月はかなり集中して勉強しました。記憶しにくい事項は、単語カードを利用し空き時間などに見るようにしました。

使用した書籍は、「分子病理専門医講習会テキスト」「ゲノム研究用・診療用病理組織検体取り扱い規定」「がんゲノム病理学」「遺伝性腫瘍ハンドブック」「成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン第3版」「がんゲノム医療遺伝子パネル検査実践ガイド」「病理と臨床 2022年臨時増刊号：がんゲノム医療時代の分子腫瘍学」「遺伝医学への招待(改訂第6版)」「絵でまるわかり分子標的抗がん薬」などです。e-Learningとしては「日本病理学会 e-Learning」「e Precision Medicine Japan」(ePMJ)(基礎編)(臨床編)などです。「がんゲノム医療遺伝子パネル検査実践ガイド」の第2章キーワードは、語句の説明が分かり易く、他の本を読む時も参考になりました。

2022年8月の「分子病理専門医講習会」を受講し、10月の「分子病理 up to date 講習会」も受講しました。同じ講師の先生の講演があり、理解に役立ちました。II型問題対策としては、「がんゲノム病理学」の解答例を書き写し、記載方法に慣れるという作業も行いました。試験前日は、試験会場近くのホテルに宿泊しましたが、部屋の照明が本を読むには暗く、携帯用の照明を購入し使用しました。直前の勉強のため、照明器具を用意して行かれるのもよいと思います。

試験問題に関してですが、ePMJ(臨床編)で提示されていた薬剤の臨床試験の名称、副作用や同系統の薬剤における有効性の優劣を問う出題はありませんでした。アミノ酸のアルファベット1文字表記は、知識として必要でした。話題となっていることは、新WHO分類、コンパニオン診断なども含め最新の分子病理の知識が必要だと感じました。II型問題では、「分子病理専門医講習会」司会である佐々木先生の「書かなければ得点にならないので、一所懸命書くように」という言葉を思い起こし、出来るだけ記載しました。遺伝子変異リストのすべてのバリエーションにコメントが必要ですが、時間もなく、VUSに関しては、西原先生の解説にあった「その他はVUS」という記載を用いました。

この度の受験で、知識不足を痛感し、さらに勉強が必要だと感じていますが、せっかくいただいた専門医ですので、社会のために生かせればと思っています。末尾になりましたが、ご協力いただいた方々に、この場をお借りして深く感謝いたします。

第3回分子病理専門医試験を受験して

神戸大学医学部附属病院病理診断科／

大学院医学研究科病理学講座病理学分野 児玉 貴之

第3回分子病理専門医試験の合格体験記を執筆する機会を頂きました。拙文ですが、これから分子病理専門医を取得しようとしている先生方、特に自分のような病理専門医取得から間もない若い先生方に、多少なりともお役に立てればと思います。自分の試験対策をここに残そうかと思います。さて、私の勤務先はがんゲノム医療拠点病院に指定されており、受験直前の時点で既に4人の分子病理専門医が在籍しておりましたが、自立してがんゲノム医療に携われる病理医になるべく、分子病理専門医試験に出願させていただきました。まずは受験年度の7月に開催された「分子病理専門医講習会」「ゲノム病理標準化講習会」を受講した後、エキスパートパネルへ出席し始めましたが、実際に試験を意識して勉強に取り組むようになったのは9～10月頃だったように思います。

I型問題対策に関しては、分子病理専門医講習会およびゲノム病理標準化講習会のテキストや「がんゲノム病理学」(文光堂)を使い、特に講習会やテキストで強調された項目を中心に勉強しました。本番でもこの範囲から出題されるものが多く、加えて各臓器における有名な分子病理学的知識を問われる問題がありました。概ね落ち着いて解答できたと思いますが、反省点を挙げるとすれば「病理と臨床」臨時増刊号の「がんゲノム医療時代の分子病理学」もしくは「癌の分子病理学」(少し古いか)を読んでおいた方がより各論的な知識もカバーできたかと思えます。

II型問題対策に関しては、「がんゲノム病理学」の後ろに載っている練習問題の他、エキスパートパネルに7月後半から毎週ほぼ欠かさずに参加しておりましたが、既に出てきたレポート原案に目を通すのと、データだけを渡されて一からレポートを書き上げるのにはやはり別世界だな、と改めて痛感いたしました。既に分子病理専門医を取得した先生からは「一切剖検報告書を書いたことのない状態で、病理専門医試験のIII型問題を解くようなものだ」と伺いましたが、まさしくその通りでした。とにかくエキスパートパネルや自己学習で得た知識をフル動員して書けるだけ書いてみました。これが功を奏したのかは定かではありませんが、どうやら平均点は上回る事ができたようです。

あれから約半年、専門医こそ取得したものの、あくまでもスタートラインに過ぎず、実際にはがんゲノム医療に貢献するにはまだまだ精進しなければならないな、と思う日々を過ごしています。最後になりましたが、分子病理専門医試験受験に際しアドバイス頂きました神戸大学のスタッフをはじめとする諸先生方に厚く御礼申し上げます。

分子病理専門医試験を終えて

奈良県立医科大学 口腔外科学講座 柳生 貴裕

この度は「分子病理専門医試験・合格への道のり」への寄稿の機会を頂き、心から感謝申し上げます。初めに、分子病理専門医試験に尽力して下さった日本病理学会の先生方、スタッフの皆様へ感謝の意を表します。また、試験当日の運営スタッフの皆様のお陰で、全力を尽くして試験に挑むことができました。改めて深く感謝申し上げます。

私自身は現在、日常的に CGP 検査に携わる訳ではありませんが、日常の臨床と研究を通じて、がんゲノム解析に関する知識の取得とその活用の重要性を実感してきました。分子病理専門医試験の受験は、知識を深める絶好の機会と考え、受験を決意しました。

勉強方法については、時間が限られていたため、過去の分子病理専門医受験記などを参考に、教材は「がんゲノム病理学」と「分子病理専門医講習会テキスト」に絞って勉強することにしました。また、エキスパートパネルにて知らなかった遺伝子名などはその都度徹底的に調べること、ゲノムデータの解釈は最も身近な口腔がん症例から取り組むことにしました。試験勉強は試験日の2ヶ月前から始めました。まず「がんゲノム病理学」を一通り暗記したあとに、「分子病理専門医講習会テキスト」での勉強に移りました（ただし、全体を通読する前に試験日を迎えてしまいました）。

第3回の試験もこれまでと同様の形式でしたが、I型問題では想像以上に多肢選択問題が多く出題されていました。非常に詳細な知識が求められる問題もありましたが、その大半は「分子病理専門医講習会」で講師の先生方が強調されていた内容や「分子病理専門医講習会テキスト」に記載されていたものでした。II型問題も従来と同様、ゲノム解析結果の解釈、二次的所見の判断、エビデンスレベルを考慮した治療選択などを記述する形式でした。私にとってはマイナーな症例が問題に含まれていて一瞬不安になりましたが、寛大に採点してもらえることを信じて、知っていることを全て書き出しました。そのため、解答し終えたのは試験時間の終了間際でした。

試験を終えた感想としては、私は「がんゲノム病理学」を読み込んだ後に、「分子病理専門医講習会テキスト」で学習を行いました。効率だけ考えるとこの順序は遠回りだったかもしれませんが、今後受験される先生方へのアドバイスとしては、特に時間的な制約がある方や試験対策だけを考える方は、「分子病理専門医講習会テキスト」をまず徹底的に理解することから始めることをお勧めします。

試験を通じて得た知識を生かし、ゲノム医療の発展に貢献できるように今後も精進してまいります。最後になりましたが、日頃から臨床と研究で大変お世話になっている病理診断学講座、口腔外科学講座、病院病理部の先生方、スタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。

第3回分子病理専門医試験を終えて

松山赤十字病院 病理診断科 水野 洋輔

ここ数年、スライドを見て腫瘍割合を評価し、ゲノム検査に適した症例かを臨床とカンサーボードで議論を行い、そこで合意が得られた症例のエキスパートパネルに参加し…と、遺伝子検査に関する仕事が増加し、病理医の仕事内容も変わってきたことを感じていました。そのため、分子病理専門医もそろそろ取得しておいた方が良いかなあとぼんやり考え始め、それを実行に移したのが昨年度というわけです。

試験が始まる数ヶ月前から、仕事の合間を見つけては書籍を読んで勉強しました。最も読んだ書籍は文光堂の『がんゲノム病理学』です。この書籍は知識のみならず、章の終わりにはI型問題に類似した選択肢形式の練習問題、さらに最終章はII型問題に類似した症例問題と、明らかに分子病理専門医試験を受験する人間をターゲットにした内容になっており、試験のシミュレーションにもなりますので、受験者は必読と考えます。その他に読んだ書籍は『ゲノム診療用病理組織検体取り扱い規定』、『分子病理専門医講習会テキスト』です。これらの書籍を読み、これで知識は大丈夫と甘いことを思いました。しかし私、分子生物学の世界は苦手なのか、単に頭が悪いのか知りませんが、読むだけではさっぱり頭に入りませんでした。なので、重要と思われることをノートに書きだして書籍の要点をまとめたミニ教科書のようなものを自分で作成し、それを心の中で読むことをひたすら繰り返しました。他にいった勉強と言えば web で受講できる『ePrecision Medicine』『遺伝性腫瘍 e-Learning』です。

そして試験の日を迎えるわけですが、試験1週間前からどうも気持ちが晴れませんでした。別に試験は心配ではなかったのですが、なにより飛行機に乗って東京に行くことが嫌でした。というのも私、大の飛行機嫌いで、まず「飛行機に乗る」こと自体が高いハードルなのです。こんな気持ちに苛まれるぐらいなら鉄道で行けばいいのにと自分でも思うのですが、航空券を購入する時は「まあ、飛行機、大丈夫だろう」と強気な気持ちになっているから、不思議です。さらに私、田舎育ちの方向音痴なので、宿泊するホテルは試験会場の目の前のホテルを押さえました。これなら、当日道に迷って会場に辿り着けないという心配もありません。

試験はI型、II型問題ともに2~3回ほど見直しをする時間があり、時間が足りなくて焦るという状況ではなかったです。I型問題は先の『がんゲノム病理学』及び『分子病理専門医講習会テキスト』で得た知識がとても役立ったという印象です。II型問題は、脳腫瘍や肺腫瘍の最新のWHO分類を理解しておかなくては解けない問題が含まれており、遺伝子に関する知識だけでなく、まさに分子“病理医”としての資質を問われている試験だと感じました。

拙文が少しでも今後の受験者のお役に立てば幸いです。

分子病理専門医試験 合格体験記

原三信病院 病理診断科 林 博之

第3回分子病理専門医試験の合格体験記を執筆する機会をいただき、ありがとうございます。がんゲノム医療への関わり方は所属施設により大きく影響され、試験への「やる気」に直結します。ここでは一般病院勤務の中堅病理医が、がんゲノム医療にふれる機会の少ない立場から試験を受けた理由、試験勉強の上でよかった点をお伝えします。

当院は福岡市博多区にある創立144周年の総合病院（病床数359床）です。「病人のための病院」を基本理念に、地域の役に立つ民間病院を追求し続けています。がんゲノム医療連携病院でなく、現在施設内でエキスパートパネルの開催はもちろん、パネル検査結果に接する機会はありません。しかし日本病理学会の求める「分子病理専門医が備えるべき知識、技術等のうち特に重要視した点」は、一般病院においても多く必要とされるもの。コロナ禍を経て学ぶ環境が劇的にかわったこの時期を逃す理由なく、試験に挑戦することとしました。

試験勉強の鍵は、モチベーションを保てたことでした。私にとって役にたったとお伝えできる点は、「カリキュラムの活用」です。普段の業務で遺伝子変異やコンパニオン診断薬の情報にふれることはまれで、ゲノム医療には知らない用語ばかり。テキストに重複して記載される内容は必要最低限のポイントであろうが、そこからどの範囲まで手をのばせばよいのか。その旗印となったのが「分子病理専門医研修カリキュラム」でした。整頓されて利用しやすく、テキストや講義資料を読み進める、予想問題を作成する上でとても良い指標となりました。研修内容の中小分類と項目説明は、学ぶ領域を効率よく知ることができ、勉強の計画に役立ちました。さらに項目ごとに学ぶ用語は、別の項目と関連することがとても多い。組織型、molecular profile、コンパニオン診断薬、保険適応医薬品、遺伝性腫瘍表現型など、関連させてできる組み合わせは自作の予想問題になります。私は小項目についてiPhoneメモを作成していました。例えば、「molecular profileに基づく組織型を理解している」のメモの中には、「肺 EGFR: lepidic growth 伴う TRU type の腺癌多い。exon20 T790M point mutation ーゲフィチニブ抵抗性だがオシメルチニブは効果」というふうに。試験勉強の進捗具合を確認できることも、カリキュラムの良い点です。慣れない多くの知識に埋もれて心が折れそうなとき、カリキュラムから全体を俯瞰してみると、「ここまで来た」「少しずつだけ進んでいる」と支えになりました。その他、年度毎に新しい変更点が赤字で記載されており、実際の試験に取り上げられているようだ」と個人的に感じます。

前日にシャープペンシルで筆記練習を行い、当日は試験時間内に十分な余裕を持って解答することができました。患者にがんゲノム医療の選択がある社会で、その知識の必要性は一般病院勤務においても変わりません。試験勉強を経て得た情報を、

知識へと深めるよう心がけていきたい。

第3回分子病理専門医試験を受験して

大分赤十字病院病理診断科 久保山 雄介

第3回分子病理専門医試験について執筆する貴重な機会をいただきましたため、簡潔に自分の経験を書かせていただこうと思います。今後受験される先生方の一助になればと思います。

私は分子病理専門医受験前年度に病理専門医を取得したのですが、私が病理専攻医として過ごした3年間は、従来の形態学に基づいた病理診断学のいろはを学ぶ期間であったと同時に、分子学的知見がコンパニオン診断などといった形で病理診断科の実際の業務に急速に入り込んできている時期でもあったように思います（私が病理医になる前からその流れはあったのかもしれない）。「ゲノム」や「分子」というととっつきにくいな、という印象がどうしても最初に浮かんでしまっていたのですが、今後自分たちはこの知識を習得することからは逃れられないんだろうなという気もしておりました。それに加えて、第1回や第2回試験受験者から試験問題難易度はかなり高いという噂を聞いていたので、厄介な試験は早いうちに終わらせてしまおうという魂胆で、すぐに受験の準備に取り掛かりました。

受験に当たり、一番困ったのは私が勤務している大分県はがんゲノム医療中核拠点病院も、拠点病院もなく、連携病院が二つしかないというがんゲノム医療過疎地であることです。私の勤務する病院は連携病院ですらないので、エキスパートパネル参加が一番のハードルでした。後になって、いくつかの中核拠点病院や拠点病院がwebでオンラインのエキスパートパネル参加を認めているらしいと知りましたが、私はお隣の福岡県の九州がんセンターに3回お邪魔させていただきました。隣県といっても特急を使って片道2時間半弱かかりますのでちょっとした小旅行です。院内の業務や術中迅速の調整などもその都度大変でしたが、6月～7月くらいの早い段階でエキスパートパネル参加3回の基準は満たすことができました。

残るは講習会受講だけで、しかもその講習会から一番試験が出題されると聞いておりましたので、講習会は真剣に受講しました。講習会テキストに加え、「青本」（がんゲノム病理学）を通読し、ePrecision Medicineを受講しました。個人的に一番有用だったと思うのは、厚生労働省の「がんの全ゲノム解析に関する人材育成推進事業」なるもので、無料のオンデマンド動画があり、知識がかなり体系的に整理された気がします。ちなみに基礎編のみの受講で十分だと思いました。上記の教材以外に、試験直前は病理と臨床の増刊号をざっと読みましたが、1～2問ピンポイントで問題が出たのでラッキーでした。

近場で分子病理専門医の知人がおらず、医局の先輩が作成した第1回試験問題の復元以外にあまり試験に関する情報収集ができなかったため、特にII型問題が不安でした。合格点も6割くらいらしいとは聞いていましたが結局何点なのかよく分か

らず、試験会場では部長や科長を務めてもおおしくない風貌の先生方も多数認め、なんだか急に不安になってしまいましたが、蓋を開けてみるとI型II型合わせて8割以上は得点できて合格していました。

試験を通じて、自分の分子病理に関する知識がほぼゼロベースから体系的に整理され、非常に有意義な機会となりました。最後になりますが、コロナもまだ落ち着かない中、試験に関わられた関係者皆様に深謝いたします。これからもより良いがんゲノム医療を提供するために研鑽を積んでいきたいと思っております。

== 支部報告 ==

-- 北海道支部 -----

北海道支部会報編集委員 田中 敏

学術活動報告

2023年3月11日(土)、第200回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が小山内 誠先生(札幌医科大学医学部病理学第二講座)のお世話で、札幌医科大学教育研究棟D301講義室で開催されました。

症例検討は以下の通りです。

症例検討

番号/発表者(と共同演者)/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/臓器名(主なもの)/臨床診断/発表者の病理診断

200-1: 瀬川恵子¹、保坂倫子¹、長谷川匡¹、榎木善春²/札幌医科大学医学部病理診断学、²札幌医科大学医学部消化器内科学/20歳代/女性/胆管/診断に難渋した肝外胆管腫瘍の1例/
mucinous cystic neoplasm

200-2: 岡崎ななせ¹、片山優子¹、仲川心平¹、石井保志¹、山田和之²、大内和之³、中黒匠人⁴/市立札幌病院病理診断科、²市立札幌病院耳鼻咽喉科、³恵佑会札幌病院病理診断科、⁴名古屋大学医学系研究科臓器病態診断学/80歳代/男性/唾液腺/嚢胞状構築をとり乳頭管状増殖を示した唾液腺腫瘍の一例/
mucinous adenocarcinoma with AKT1 E17K mutation

200-3: 林真奈美、湯澤明夏、上小倉祐機、武田智宏、青木直子、谷野美智枝/旭川医科大学病院病理部/60歳代/女性/腎臓/診断に難渋した好酸性顆粒状胞体を示す77mm大の腎腫瘍/
low-grade oncocytic tumor

200-4: 高橋利幸¹、尾島英和²、原田憲一³、Ryan Gill⁴/北海道消化器科病院病理部、²慶応義塾大学医学部病理学教室、³金沢大学医薬保険研究域医学系人体病理学、⁴Departments of Pathology, University of California San Francisco/60歳代/女性/肝臓/生前診断できなかった剖検例の肝病変/
high grade vascular neoplasm, potentially arising from a hepatic small vessel neoplasm

200-5: 山野三紀¹、千葉丈弘²、高金典明²/函館五稜郭病院病理診断科、²函館五稜郭病院外科/80歳代/女性/回盲部/発生母地が問題となった回盲弁腫瘍の一例/
adenocarcinoma with adenoma component

また、標本交見会教育講演が行われました。

演題: リンパ腫分類の動向

演者: 旭川赤十字病院病理診断科

菊地智樹 先生

座長: 小樽市立病院病理診断科

辻脇光洋 先生

標本交見会に引き続いて、標本交見会第200回記念特別事業として、功労者表彰式および記念講演が行われました。

記念講演

演題: 病理学の更なる前進を願って—AMEDでの経験も加えて

演者: AMED 審査委員長、AMED 前 PO、
札幌医科大学名誉教授、同シニア URA
佐藤昇志 先生

座長: 札幌医科大学病理学第二講座

小山内誠 先生

-- 関東支部 -----

関東支部会報編集委員 林 雄一郎

第98回日本病理学会関東支部学術集会及び2023年度総会

日時: 2023(令和5年)7月8日(土)13:00~17:10

会場: 国立がん研究センター(研究所1F大会議室)と

Web配信のハイブリット形式

世話人: 国立がん研究センター中央病院病理診断科

谷田部 恭先生

-- 中部支部 -----

中部支部会報編集委員 浦野 誠

第26回日本病理学会中部支部スライドセミナー交見会(ハイブリット開催)

2023年3月11日(土)会場: 岐阜大学医学部

世話人: 宮崎龍彦先生(岐阜大学医学部附属病院病理部)

参加者: 179名

【教育講演】

岩田浩明先生(岐阜大学皮膚科)

「皮膚科臨床医がみる皮膚病理」

【特別セミナー】

川上民裕先生(東北医科薬科大学皮膚科)

「皮膚血管炎病理と皮膚科医の目線」

【特別講演】

高橋 啓先生(東邦大学大橋病院病理診断科)

「系統的血管炎の病理—大型・中型血管炎の鑑別のポイント」

【ミニレクチャー】

宮崎龍彦先生(岐阜大学医学部附属病院病理部)

「血管炎の病理診断のキホン」

【症例検討】

座長 浦野 誠 (藤田医科大学ばんだね病院)

S2023-1 岐阜大学医学部附属病院 小林一博 皮膚 60代 男性

VEXAS syndrome

不明熱と全身性紅斑を呈した VEXAS 症候群例。生検でリンパ球および好中球性の血管周囲炎を認めた。UBA1 遺伝子変異が証明された。自己炎症性疾患である本疾患と MDS や反復性軟骨炎との関連が述べられた。

S2023-2 静岡県立総合病院/藤田医科大学病院病理診断センター

村松 彩 血管 10代後半 男性

Degos' disease

まれな Degos 病の皮膚生検および剖検例。特徴的な皮疹と多発脳梗塞、腸管障害を認めた。動静脈の閉塞像、血管内皮への C5b9、インターフェロン誘導蛋白である MXA の沈着が認められた。

S2023-3 諏訪中央病院 浅野功治 皮膚 60代前半 男性

Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA)

気管支喘息、副鼻腔炎があり、MPO-ANCA 上昇を認めた。下肢紫斑部の生検で真皮浅層に核破砕性血管炎像を、深層にフィブリノイド壊死を伴う血管炎を認め全体像の解釈について討論された。胃、肺、骨髄にも好酸球浸潤がみられた。

座長 片山雅貴 (岐阜県総合医療センター)

S2023-4 岐阜県総合医療センター 森 弘輔 皮膚 40代 女性

Pagetoid Spitz nevus

表皮内に大型異型核を有する好酸性細胞の ascent を伴う個細胞性分布がみられた。核分裂像は認めず、BRAF V600E は陰性であった。Malignant melanoma in situ との鑑別について解説がなされた。

S2023-5 名古屋大学医学部附属病院 加留部謙之輔 皮膚 70代前半

男性 Composite lymphoma : Low grade B-cell lymphoma (favor marginal zone lymphoma) with cutaneous T-cell lymphoma, NOS

初発時には辺縁帯 B 細胞性リンパ腫の像を、再発時には T 細胞性リンパ腫の像が優勢であった皮膚リンパ腫例。皮膚肉眼所見は菌状息肉腫とは異なっていた。Composite lymphoma の概念、発生機転について解説された。

S2023-6 岐阜大学医学部附属病院 花松有紀 皮膚 60代 女性

Fibrosarcomatous DFSP with myoid differentiation

DFSP の典型部分、異型の強い富細胞性部分、平滑筋様を示す myoid 部分の混在からなっていた。CD34、平滑筋アクチン染色の解釈の注意点、myoid 部分が腫瘍性か非腫瘍性かについて文献的考察がなされた。

【第 89 回 中部支部学術奨励賞受賞者】

カテゴリ AB : 浦野友哉先生

(大垣市民病院)

総合 : 内山明央先生 (富山県立中央病院)

次回学術集会予定

第 91 回日本病理学会中部支部交歓会

日 時 : 2023 年 12 月 9 日 (土)

場 所 : 名古屋市立大学

世話人 : 村瀬貴幸先生 (名古屋市立大学)

第 27 回スライドセミナー

日 時 : 2024 年 3 月 16 日 (土)

場 所 : 三重大学 (予定)

世話人 : 今中恭子先生

テーマ : 心臓

第 92 回日本病理学会中部支部交歓会

日 時 : 2024 年 夏

場 所 : 未定

世話人 : 平林健一先生 (富山大学)

東海病理学会 検討症例報告

第 387 回 (2023 年 2 月 18 日 参加者 14 名 於 : 藤田医科大学)

症例番号/病院名/病理医/年齢 (才代)/性/臓器/臨床診断/病理組織学的診断

5619/清水厚生/浦野 誠/70/男/歯肉/歯肉腫瘍/Amebiasis gingivalis

5620/関西医大/浦野 誠/20/男/皮膚/上口唇皮下腫瘍/

Microcystic adnexal carcinoma

5621/岐阜大/大久保貴史/70/女/聴器/外耳道腫瘍/Pleomorphic adenoma

5622/大同/小島伊織/80/女/腎/腎癌/Mucinous tubular ans spindle cell carcinoma

5623/大同/小島伊織/50/男/軟部/側頭部腫瘍/Phosphaturic mesenchymal tumor

5624/岐阜大/小林一博/20/男/腹腔/腸間膜腫瘍/Desmoid-type fibromatosis

5625/鈴鹿中央総合/村田哲也/50/男/耳下腺/耳下腺腫瘍/

Basal cell adenoma with cystic change

5626/諏訪中央/浅野功治/50/男/皮膚/血管炎/

Eosinophilic granulomatous polyangiitis

5627/中部国際医療センター/杉山誠治/60/女/口蓋/口蓋腫瘍/

Adenoid cystic carcinoma

5628/大垣市民/黒川 景/40/女/肺/肺癌/Adenocarcinoma, ALK-positive, suspect

5629/大垣市民/黒川 景/80/女/上顎/顎骨壊死/

Sequesterum containing reactive epithelium

5630/藤田医大岡崎医療センター/西島亜紀/50/男/膀胱/膀胱癌/

Nephrogenic metaplasia/adenoma

第 388 回

(2023 年 3 月 18 日 参加者 16 名 於 : 藤田医科大学)

5631/藤田医大ばんだね/浦野 誠/70/女/肺/肺癌疑い/

Invasive mucinous adenocarcinoma, suspect

5632/藤田医大/磯村まどか/60/男/舌/舌癌/Spindle cell carcinoma

5633/鈴鹿中央総合/浅野功治/50/女/大腸/悪性リンパ腫疑い/

Metastatic carcinoma, probably mammary invasive lobular carcinoma

5634/藤田医大/山田勢至/30/男/リンパ節/悪性リンパ腫疑い/

Dermatopathic lymphadenopathy

5635/大同/小島伊織/20/女/口蓋/口蓋腫瘍/

Mucoepidermoid carcinoma with ciliated change

5636/鈴鹿中央総合/村田哲也/40/男/胆嚢/胆嚢ポリープ/Arteritis

5637/藤田医大岡崎医療センター/中川 満/20/女/子宮/子宮筋腫/

Smooth muscle tumor of uncertain malignant potential

5638/藤田医大岡崎医療センター/中川 満/60/男/腎/腎腫瘍/

Oncocytic chromophobe cell renal cell carcinoma, suspect

5639/トヨタ記念/島 寛太/60/女/卵巣/卵巣嚢胞/

Carcinoid tumor

5640/トヨタ記念/島 寛太/30/女/リンパ節/原発不明癌/

Anaplastic large cell lymphoma, ALK-negative

5641/トヨタ記念/島 寛太/30/女/子宮/子宮頸癌疑い/
Gastric type adenocarcinoma in situ
5642/中部国際医療センター/杉山誠治/50/女/肺/肺癌/
Solid adenocarcinoma, ALK-positive
5643/大垣市民/黒川 景/60/女/卵巣/卵巣結節/Stromal theca cell hyperplasia
5644/大垣市民/黒川 景/60/男/肺/肺癌/Invasive mucinous adenocarcinoma

第 389 回

(2023 年 4 月 8 日参加者 18 名 於：藤田医科大学)
5645/藤田医大/稲田健一/30/女/外陰/外陰腫瘍/Malignant tumor, unspecified
5646/大同/小島伊織/70/男/骨髄/悪性リンパ腫/Plasmablastic lymphoma
5647/大同/小島伊織/30/女/子宮/子宮筋腫/Atypical polypoid adenomyoma
5648/藤田医大岡崎医療センター/中川 満/50/女/耳下腺/耳下腺腫瘍/
Lymphadenoma, nonsebaceous
5649/鈴鹿中央総合/村田哲也/70/女/鼻腔/鼻腔腫瘍/Malignant melanoma
5650/鈴鹿中央総合/村田哲也/50/男/腎/糖尿病性腎症/
Post-infectious glomerulonephritis
5651/岐阜大/酒々井夏子/60/男/軟部/腋窩腫瘍/
Male accessory mammary gland carcinoma
5652/中部国際医療センター/杉山誠治/60/女/口蓋/口蓋腫瘍/
Sclerosing microcystic adenocarcinoma, suspect
5653/中部国際医療センター/杉山誠治/40/女/膀胱/膀胱腫瘍/
Inflammatory myofibroblastic tumor
5654/大垣市民/黒川 景/60/男/膵/SPN 疑い/IgG4-related sclerosing pancreatitis

第 390 回

(2023 年 5 月 13 日 18 名 於：藤田医科大学)
5655/蒲郡市民/浦野 誠/10/男/皮下/石灰化上皮腫/Solitary fibrous tumor
5656/藤田医大ばんだね/浦野 誠/60/女/卵巣/卵巣腫瘍/
Adult granulosa cell tumor
5657/藤田医大/一安泰祐/40/女/肝/肝腫瘍/Focal nodular hyperplasia
5658/トヨタ記念/島 寛太/80/女/皮膚/皮膚結節/
MTX-related lymphoproliferative disorder
5659/トヨタ記念/住吉清香/50/女/胸腺/胸腺腫疑い/Lymph follicle hyperplasia
5660/大同/小島伊織/70/男/膀胱/膀胱癌/Leiomyosarcoma
5661/大同/小島伊織/70/男/膀胱/膀胱癌/
Urothelial carcinoma, sarcomatoid subtype
5662/中部国際医療センター/山田鉄也/50/女/副鼻腔/上顎洞癌/
HPV-associated multiphenotypic sinonasal carcinoma
5663/中部国際医療センター/山田鉄也/50/女/鼻腔/鼻腔ポリープ/
Sinonasal eosinophilic angiocentric fibrosis
5664/中部国際医療センター/杉山誠治/30/男/副咽頭/副咽頭間隙腫瘍/
Paraganglioma
5665/鈴鹿中央総合/村田哲也/60/女/肺/多発肺結節/
Epithelioid hemangioendothelioma
5666/藤田医大岡崎医療センター/西島亜紀/50/女/子宮/子宮頸癌疑い/
Adenocarcinoma
5667/藤田医大岡崎医療センター/西島亜紀/40/女/皮下/腋窩皮下腫瘍/
Clear cell hidradenoma
5668/小牧市民/楽原恭子/10/男/大脳/DNT/疑い/Pilocytic astrocytoma, suspect
5669/小牧市民/楽原恭子/60/男/肺/肺癌/Sclerosing pneumocytoma
5670/大垣市民/黒川 景/70/男/膵/膵癌疑い/
Post-inflammatory regenerative change

5671/大垣市民/黒川 景/60/女/卵巣・虫垂/卵巣腫瘍・虫垂腫瘍/
Mucinous adenoma and low-grade appendiceal mucinous neoplasm
5672/藤田医大/山田勢至/30/男/副鼻腔/前頭洞腫瘍/NUT carcinoma

第 391 回

(2023 年 6 月 3 日 17 名 於：藤田医科大学)
5673/藤田医大ばんだね/浦野 誠/40/女/卵巣/卵巣嚢胞/
Seromucinous borderline tumor
5674/藤田医大ばんだね/浦野 誠/50/女/唾液腺/顎下腺腫瘍/
Mucoepidermoid carcinoma, intermediate grade
5675/諏訪中央総合/浅野功治/60/男/胃/胃粘膜下腫瘍/Leiomyomas, multiple
5676/鈴鹿中央総合/村田哲也/50/男/乳腺/乳腺腫瘍/
Papillary ductal carcinoma in situ
5677/江南厚生/柳田恵理子/70/男/喉頭/喉頭蓋嚢胞/
Pleomorphic/spindle cell lipoma
5678/藤田医大岡崎医療センター/中川 満/60/女/子宮/子宮頸癌疑い/
High grade sarcoma, suspect
5679/藤田医大岡崎医療センター/中川 満/50/女/胃/Cronkhite-Canada 症候群
/Cronkhite-Canada syndrome, compatible
5680/藤田医科大学/山田勢至/60/男/軟部/頬部腫瘍/
Pleomorphic/spindle cell lipoma

— 近畿支部 —

近畿支部会報編集委員 竹内 康英

I. 活動報告

A) 日本病理学会近畿支部第 101 回学術集会

日本病理学会近畿支部第 101 回学術集会在下記の内容で開催されました。検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ (<http://jspk.umin.jp/>) にて閲覧可能です。

アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局 (kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp) までお尋ね下さい。

開催日：令和 5 年 5 月 27 日 (土)

世話人：京都大学 羽賀 博典 先生

モデレーター：大阪母子医療センター 竹内 真先生

京都大学医学部附属病院 南口早智子先生

テーマ：胎盤

会場：京都大学医学部 芝蘭会館

9:30～開場

9:40～開会の挨拶

9:45～10:00

学生・研修医セッション『膵臓腫瘍の一例』

中島智史先生、他 (神戸大学医学部附属病院 総合臨床教育センター)

コメンテーター：羽賀博典先生 (京都大学医学部附属病院)

10:00～10:20

症例検討 1005『右小脳に発見された紡錘形細胞腫瘍』

杉本曉彦先生、他 (滋賀県立総合病院 病理診断科)

コメンテーター：田原紳一郎先生

(大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学講座)

10:20~10:40

症例検討 1006 『好酸性細胞浸潤が目立った慢性胃炎の一例』
塚本修一先生、他（神戸大学大学院医学研究科 病理学講座病理学分野、
加古川中央市民病院 病理診断科）

コメンテーター：吉澤明彦先生（京都大学医学部附属病院）

10:40~11:00

症例検討 1007 『過去に Unclassified RCC と診断された腎腫瘍の一例』

塩原正規先生、他（滋賀医科大学医学部附属病院 病理診断科）

コメンテーター：足立 靖先生（恵心会 京都綾部さくらホーム）

11:00~12:00 休憩

12:00~12:50 令和5年度近畿支部総会・学術奨励賞授与式

12:50~13:00 休憩

13:00~14:00

<特別講演1>座長：南口早智子先生（京都大学医学部附属病院）

『胞状奇胎の診断と管理、補助診断法：絨毛性疾患研究者である産婦人科医
の立場から』

碓井宏和先生（千葉大学大学院医学研究院 生殖医学）

14:05~15:05

<特別講演2>座長：竹内 真先生（大阪母子医療センター）

『周産期胎盤の病理』

佐藤勇一郎先生（宮崎大学医学部附属病院 病理診断科・病理部）

15:05~15:25 休憩

15:30~16:30

<特別講演3>座長：竹内 真先生（大阪母子医療センター）

『双胎胎盤の病理診断 なにを調べ なにを書くか』

松岡健太郎先生（東京都立小児総合医療センター 病理診断科）

16:30~16:40 休憩

16:40~17:00

<症例提示・解説1>座長：南口早智子先生（京都大学医学部附属病院）

『胎盤の感染症』

市川千宙先生（加古川中央市民病院 病理診断科）

17:00~17:20

<症例提示・解説2>座長：南口早智子先生（京都大学医学部附属病院）

『分娩後異常出血の一例』

石田文美先生（独立行政法人国立病院機構京都医療センター 病理診断科）

17:20~17:30 閉会の挨拶、次回開催案内

II. 今後の活動予定

a) 第102-104回学術集会のお知らせ

第102-104回学術集会は現地開催を予定しております。専門
医資格更新単位の発行を予定しています。参加登録方法は近畿
支部ホームページにて案内予定です。

第102回学術集会

開催日：令和5年9月30日（土）

世話人：大阪大学 森井英一先生

モデレーター：堺市立総合医療センター 安原裕美子先生

テーマ：感染症

会場：大阪大学銀杏会館

第103回学術集会

開催日：令和5年12月16日（土）

世話人：未定

モデレーター：高槻病院 伊倉義弘先生

京都大学 羽賀博典先生

テーマ：肝臓（非腫瘍）

会場：未定

第104回学術集会

開催日：令和6年2月17日（土）

世話人：京都大学 羽賀博典先生

モデレーター：京都大学 竹内康英

テーマ：分子病理

会場：大阪市立総合医療センター さくらホール（予定）

b) 令和5年度「夏の学校」開催のご案内

名称：夏期病理セミナー「夏の学校」2023年

日時：令和5年8月26日（土）12:30~17:00（予定）

テーマ：「病理医のやりがいて何なん？」

開催方式：Zoom オンライン開催

企画：和歌山県立医科大学人体病理学教室/病理診断科

世話人：村田晋一先生（和歌山県立医科大学人体病理学教室
/病理診断科）

対象者：医学部生、歯学部生、研修医、指導医

受講料：無料

参加申込方法：Google フォームからの事前申込登録

申込期間：※7月頃、近畿支部ホームページに掲載予定

プログラム：※7月頃、近畿支部ホームページに掲載予定

お問合せ先：日本病理学会近畿支部 事務局

kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

--- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 水野 洋輔

A. 開催報告

第141回学術集会

日本病理学会中国四国支部第141回学術集会が下記の内容で
開催されました。

発表スライドや投票結果は <https://plaza.umin.ac.jp/csp-kouhou/>
でご覧ください。

開催日：令和5年6月3日（土）12:40~17:45

世話人：島根大学医学部附属病院病理部

荒木亜寿香先生

島根大学医学部器官病理学講座

門田球一先生

開催形式：Web 開催（‘Cisco Webex Meetings’）

特別講演

「下垂体病変の病理診断」
東海大学医学部 基盤診療学系 病理診断学
井野元智恵 先生

演題番号/タイトル/出題者 (所属)/出題者診断/最多投票診断

S2877/リンパ節病変/厚美 憲吾 (徳島大学病院 病理部)/
Adult T-cell leukemia/lymphoma/ Adult T-cell leukemia/lymphoma

S2878/脾病変の一例/田畑 成美 (高知大学医学部 医学科 6年)/
Sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT)/
Sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT)

S2879/肝生検/石川 亮 (香川大学医学部附属病院 病理診断科)/
Glycogen storage disease type IV, Andersen disease/
Glycogen storage disease

S2880/卵巣腫瘍/綾田 善行 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病理学)/
Perivascular epithelioid cell tumor (PEComa)/
Endometrioid stromal tumor

S2881/上顎腫瘍/平山 洸 (高知大学医学部医学科 6年)/
Mesenchymal chondrosarcoma/ Osteosarcoma

S2882/顎骨腫瘍/石井 弘司 (鳥取大学医学部附属病院 病理部)/
Radicular cyst with Langerhans cell histiocytosis/
Radicular cyst with Langerhans cell histiocytosis

S2883/下垂体腫瘍/西條 康代 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 分子病理学分野)/
Atypical teratoid/rhabdoid tumor of the sellar region/
Pituitary carcinoma/Metastatic Pituitary neuroendocrine tumor

S2884/左眼内腫瘍/森日 香 (広島大学病院 病理診断科)/
Adenoma of retinal pigment epithelium /
Melanoma (chroidal, uveal)

S2885/皮膚病変/森重 拓士 (山口大学大学院医学系研究科 病理形態学)/
Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm/
Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm

S2886/仙骨部皮下腫瘍/佐藤 里加 (鳥根大学医学部 病態病理学)/
Subcutaneous ependymoma /Chordoma

S2887/仙骨腫瘍/片岡 祐子 (鳥根大学医学部 器官病理学)/
Fibroblastic tumor, PRRX1-NCOA1-rearranged fibroblastic tumor, morphologically suspected/
Desmoplastic fibroma

S2888/唾液腺腫瘍/谷口 恒平 (広島市立広島市民病院 病理診断科)/
Carcinoma ex pleomorphic adenoma/
Carcinoma ex pleomorphic adenoma

S2889/耳下腺腫瘍/富田 満 (徳島市民病院 病理診断科)/
Intraductal carcinoma, intercalated duct type, with TALP/
Warthin tumor

S2890/耳下腺腫瘍/表 梨華 (福山医療センター 病理診断科)/
Pleomorphic adenoma / Myoepithelioma

B. 開催予定

第 142 回学術集会

日 時：令和 5 年 11 月 25 日 (土)

世話人：姫路赤十字病院病理診断科 伏見総一郎 先生

特別講演：『タイトル未定』

和歌山県立医科大学人体病理学 小島史好 教授

九州沖縄支部

九州沖縄支部会報編集委員 立石 悠基

1. 活動報告

第 392 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日 時：2023 年 3 月 18 日 (土) 13:00~17:10

場 所：Web 開催 (Webex meetings 使用)

世話人：別府医療センター病理診断科

中園裕一先生

大分赤十字病院病理診断科

久保山雄介先生

九州大学病院別府病院検査科

東保太郎先生

参加数：198 名

第 392 回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/出題者診断/投票最多診断

座長：大石善丈 (飯塚病院)

1. Colorectal lesion/谷口義章/九州大学形態機能病理学/70 代/男性/
Idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins/
Idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins
2. 耳下腺腫瘍/木村翔一/福岡大学病理学講座/70 代/女性/
Epithelial-myoepithelial carcinoma/
Epithelial-myoepithelial carcinoma
3. 下顎骨腫瘍/瀧澤克実/福岡東医療センター病理診断科/40 代/女性/
Combined sclerosing odontogenic carcinoma and phosphaturic mesenchymal Tumor/Phosphaturic mesenchymal tumor

座長：小山雄三 (大分大学医学部診断病理学講座)

4. 腹腔内腫瘍/加藤達樹-中園裕一/別府医療センター/60 代/女性/
Peritoneal methothelioma (Epithelioid methothelioma)/
Malignant mesothelioma
5. 腎腫瘍/宮本拓海/九州大学形態機能病理学/40 代/男性/
ALK-rearranged renal cell carcinoma/
Epithelioid angiomyolipoma
6. 腎腫瘍/吉川亮-黒濱大和/長崎大学/50 代/男性/
RCC with leiomyomatous stroma/
RCC, ELOC (TCEB1)-mutated

座長：和田純平 (大分県立病院)

7. 膀胱腫瘍/草場敬浩/大分大学医学部診断病理学講座/20 代/男性/
Inflammatory myofibroblastic tumor/
Inflammatory myofibroblastic tumor
8. 子宮体部腫瘍/岡崎菜紗/熊本赤十字病院病理診断科/50 代/女性/
Mesonephric-like adenocarcinoma/
Mesonephric-like adenocarcinoma
9. 皮下腫瘍/増本陽介-宮崎佳子/飯塚病院病理科/70 代/女性/
Sparganosis/Sparganosis
10. 脳腫瘍/霧島茉莉/鹿児島大学病理学分野/10 代/男性/
Diffuse hemispheric glioma, H3 G34-mutant/
Polymorphous low-grade neuroepithelial tumor of the young

また、第392回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に
学術講演が下記のように開催されました。

学術講演演題：「胆道・膵の腫瘍性病変」

演者：佐賀大学医学部診断病理学 教授 相島慎一先生

座長：九州大学病院 別府病院 検査科 東保太郎先生

第393回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように
開催されました。

日 時：2023年5月13日（土）13:00～17:05

場 所：Web 開催（Webex meetings 使用）

世話人：九州大学大学院形態機能病理学 教授 小田義直先生

参加数：244名

第393回九州・沖縄スライドコンファレンス

座長：毛利太郎（九州大学形態機能病理学）

1. 胸壁腫瘍/陣内一輝・明石道昭・甲斐敬太/佐賀大学医学部附属病院病
理診断科・唐津赤十字病院/60代/男性/

Undifferentiated sarcoma, small round cell type/

Multiple myeloma

2. 腎病変/梅北佳子/宮崎大学医学部病理学講座/日齢130日/女性/

Renal tubular dysgenesis/Nephrocalcinosis

3. 精巣腫瘍/貝森峻/大分大学医学部診断病理学講座/60代/男性/

Well-differentiated neuroendocrine tumor of the testis/

Testicular neuroendocrine tumor, prepubertal type

座長：岩崎健（九州大学形態機能病理学）

4. 鎖骨部腫瘍/50代/女性/青木光希子/福岡大学病理学教室/50代/女性/

Branchioma (Ectopic hamartomatous thymoma)/

Branchioma/Biphenotypic branchioma/Ectopic hamartomatous thymoma

5. 皮膚病変/寺原航・白濱浩/鹿児島大学病理学分野・いまきいれ総合病院
/40代/男性/

Secondary syphilis/Syphilis

座長：木下伊寿美（小倉記念病院）

6. Brain tumor/田中康/九州大学形態機能病理学/0歳3か月/男性/

Infant-type hemispheric glioma with NTRK fusion/

Desmoplastic infantile ganglioglioma/astrocytoma (DIG/DIA)

7. 脳腫瘍/川谷由紀/山口大学大学院医学系研究科分子病理学/0歳9ヶ月/
女性/

Infant-type hemispheric glioma with NTRK altered/

Diffuse low grade glioma

8. 小脳腫瘍/森坪麻友子/久留米大学病理学講座/1歳/男性/

Pilocytic astrocytoma with histological features of anaplasia/

Pilocytic astrocytoma

また、第393回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に
2023年度の日本病理学会九州沖縄支部のスラコン世話人会・
支部総会が下記のように開催され、以下の議題について承認さ
れました。

スラコン世話人会

日 時：2023年5月13日（土）10:30～11:00 Web 開催

世話人幹事：九州大学大学院形態機能病理学

教授 小田義直先生

出席者：世話人92名

1. 日本病理学会九州沖縄支部役員名簿（案）
2. スラコン開催予定
3. 各施設の会員数・出題・投票・出席状況
4. 新規加盟施設と世話人交代
5. スラコンの演題登録について
6. スラコンの開催形式について
7. 2023年度の標本配布施設について

支部総会

日 時：2023年5月13日（土）15:30～16:30 Web 開催

支部長：産業医科大学第一病理学 教授 久岡正典先生

出席者：支部会員228名

1. 報告事項

1) 各委員会からの報告

2022年度優秀症例報告賞・学術委員会

業務委員会

若手病理医の会

支部コンサルテーション運用システム

女性病理医支援窓口

ティーチングファイル委員会

2) その他の報告

スラコン開催予定

第10回秋の病理学校報告

第11回秋の病理学校について

2. 議題

1) 日本病理学会九州沖縄支部役員名簿（案）

2) 2022年度決算報告

3) 2023年度予算（案）

4) スラコンの演題登録について

5) スラコンの開催形式について

6) 支部HPのバーチャルシステムについて

7) 2024年7月の400回記念について

3. その他

事務局からのお願い

病理学会委員会における九州沖縄支部関連者

病理学会支部委員会報告

第69回日本病理学会秋期特別総会のお知らせ

2. 開催予定

第 394 回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：7月8日（土）

世話人：福岡和白病院病理診断科

中野龍治先生 松山篤二先生

学術講演が同時開催されます。

学術講演 宮崎大学医学部附属病院

病理診断科・病理部 部長 佐藤勇一郎先生

「胎盤病理の見方」

第 96 回九州病理集談会も同時開催されます。

第 395 回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：9月9日（土）

世話人：熊本大学大学院生命科学研究部

細胞病理学分野 教授 菰原義弘先生

熊本大学病院病理診断科 教授 三上芳喜先生

合同カンファレンス・テーマ：リンパ・網内系

臨床コメンテーター：九州大学大学院病態修復内科学

准教授 加藤光次 先生

病理コメンテーター：久留米大学医学部病理学講座

教授 大島孝一 先生

=====
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会：池田純一郎（委員長）、田中 敏（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、林雄一郎（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、竹内康英（近畿支部）、水野洋輔（中国四国支部）、立石悠基（九州沖縄支部）
=====

日本病理学会コンサルテーションシステム 謝辞

令和4年度日本病理学会コンサルテーションシステムにおきまして、ご尽力を賜りましたコンサルタントの先生方に心より感謝申し上げます。本システムのコンサルテーションをお引き受けくださった先生方を以下に記載させていただきます。

令和5年6月吉日

一般社団法人 日本病理学会

理事長 小田 義直

相島 慎一	浅野 直子	綾田 善行	新井 富生	井川 卓朗	池田 善彦
石川 雄一	石澤 圭介	石田 剛	泉 美貴	稲村 健太郎	井上 健
井下 尚子	今北 正美	今村 好章	入江 太朗	岩田 純	岩淵 英人
岩渕 三哉	植田 初江	牛久 哲男	浦野 誠	大池 信之	大江 知里
大島 孝一	大橋 瑠子	大林 千穂	岡 輝明	尾島 英知	小田 義直
小幡 博人	海崎 泰治	覚道 健一	鹿毛 政義	桂田 由佳	加藤 省一
門田 球一	亀山 香織	茅野 秀一	川口 佳乃	川本 雅司	清川 貴子
草深 公秀	九嶋 亮治	黒瀬 顕	孝橋 賢一	古賀 佳織	小島 史好
後藤 明輝	後藤 啓介	小西 英一	小森 隆司	近藤 哲夫	桜井 孝規
笹島 ゆう子	笹野 公伸	佐藤 啓	佐藤 康晴	佐藤 勇一郎	澤井 高志
柴原 純二	清水 道生	下田 将之	城 謙輔	菅井 有	杉本 亮
鈴木 正章	関 邦彦	副島 友莉恵	鷹橋 浩幸	竹下 盛重	武田 麻衣子
田中 顕	田中 伸哉	田中 健大	田中 水緒	田中 祐吉	谷岡 書彦
種田 積子	田丸 淳一	津田 均	土屋 眞一	都築 豊徳	堤 寛
土居 正知	豊澤 悟	長尾 俊孝	長坂 徹郎	長嶋 洋治	名方 保夫
中谷 行雄	中沼 安二	中峯 寛和	中村 直哉	仁木 利郎	西田 陽登
西村碧フィリーズ	二村 聡	信澤 純人	羽尾 裕之	長谷川 匡	長谷川 博雅
林 大久生	林 博之	久岡 正典	比島 恒和	蛭田 啓之	廣川 満良
廣島 健三	福岡 順也	福嶋 敬宜	福永 真治	藤本 正教	堀井 理絵
堀川 恭佑	本間 慶一	本間 琢	増田 しのぶ	松岡 健太郎	松野 吉宏
松原 大祐	松本 俊治	松山 篤二	三上 修治	三上 芳喜	湊 宏
南口 早智子	三原 勇太郎	宮内 睦美	三好 寛明	村田 晋一	元井 亨
元井 紀子	百瀬 修二	森谷 鈴子	森谷 卓也	八尾 隆史	安田 政実
谷田部 恭	柳井 広之	山口 岳彦	山崎 文子	山崎 有人	山田 悠一
山元 英崇	横尾 英明	吉川 洋	吉澤 明彦	吉田 朗彦	吉田 正行
吉野 正	吉村 雅代	若狭 研一	渡邊 隆弘	渡邊 麗子	

(敬称略)